



平成29年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成28年7月27日
上場取引所 東

上場会社名 株式会社 デサント
コード番号 8114 URL http://www.descente.co.jp
代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 石本 雅敏
問合せ先責任者(役職名) 取締役スタッフ管掌 (氏名) 辻本 謙一 (TEL) 06-6774-0365

四半期報告書提出予定日 平成28年8月4日 配当支払開始予定日 —
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年3月期第1四半期の連結業績(平成28年4月1日～平成28年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第1四半期	27,935	△3.6	1,313	5.9	1,406	△4.8	1,045	△10.2
28年3月期第1四半期	28,989	23.8	1,240	—	1,477	—	1,164	—

(注) 包括利益 29年3月期第1四半期 △1,389百万円(—%) 28年3月期第1四半期 1,077百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第1四半期	13.88	—
28年3月期第1四半期	15.46	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年3月期第1四半期	101,261	67,078	66.2
28年3月期	107,624	69,748	64.8

(参考) 自己資本 29年3月期第1四半期 67,078百万円 28年3月期 69,748百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	0.00	—	17.00	17.00
29年3月期	—	—	—	—	—
29年3月期(予想)	—	0.00	—	17.00	17.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年3月期の連結業績予想(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	65,000	0.1	3,600	△29.2	3,700	△29.7	2,400	△35.5	31.86
通期	138,000	1.6	10,400	0.2	10,500	△5.0	7,500	△4.7	99.55

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、四半期決算短信【添付資料】4 ページ「2. サマリー情報 (注記事項) に関する事項 (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	29年3月期1Q	76,924,176株	28年3月期	76,924,176株
② 期末自己株式数	29年3月期1Q	1,586,731株	28年3月期	1,586,731株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	29年3月期1Q	75,337,445株	28年3月期1Q	75,337,748株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信【添付資料】3 ページ「(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9
4. 補足情報	10
海外売上高	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間の売上高は27,935百万円（前年同四半期比3.6%減）、営業利益は1,313百万円（前年同四半期比5.9%増）、経常利益は1,406百万円（前年同四半期比4.8%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,045百万円（前年同四半期比10.2%減）となりました。

当社グループは、平成28年5月10日に2020年度に目指す姿「VISION 2020」と、その達成に向けた当期を初年度とする中期3ヶ年経営計画「Compass 2018」を発表しました。数値目標としては2018年度に売上高1,700億円、経常利益140億円、親会社株主に帰属する当期純利益100億円、2020年度に売上高2,000億円、経常利益160億円としています。その達成に向けて、グローバルレベルでの一貫性のあるブランド戦略の構築、競争力の源泉である「モノを創る力」、自主管理店舗推進のための「売場を創る力」の向上、更にそれらを支える経営インフラとロジスティクス体制の整備などを重点戦略として取り組んでいきます。

報告セグメントの業績は次のとおりであります。

(セグメント別売上高)

セグメントの名称	売上高(百万円) (前年同四半期比)	セグメント利益又は損失(百万円) (前年同四半期比)
日 本	10,625 (104.2%)	△906 (前年同四半期△997百万円)
ア ジ ア	16,746 (89.1%)	2,359 (96.3%)
欧 米	563 (前年同四半期2百万円)	△270 (前年同四半期△105百万円)
調 整 額	—	130 (前年同四半期△108百万円)
合 計	27,935 (96.4%)	1,313 (105.9%)

(日本)

アスレチックウェアにおいて、「デサント」、「スキンズ」は好調に推移し、その他のブランドも概ね堅調でしたが、「アンブロ」は苦戦をしました。ゴルフウェアにおいては、主力の「マンシングウェア」、「ルコックスポルティフ」は苦戦をしましたが、2015年春夏より展開の「デサントゴルフ」の拡大および2016年春夏より展開を始めた「スリクソン」ブランドが、売上の拡大に繋がりました。また、アウトドアウェアにおいては「マーモット」が好調に推移しました。結果、日本全体として売上高は前年を上回り、損益面では返品や売上値引の減少により売上総利益が改善したことで損失は縮小しました。

(アジア)

現地通貨ベースでは、各国およびブランドによるばらつきはあるものの、韓国においては「デサント」ブランドを中心に、中国においては「アリーナ」、シンガポールにおいては「ルコックスポルティフ」を中心に概ね堅調に推移しました。香港においては、「マンシングウェア」が苦戦をし、売上は減少となりました。邦貨ベースとしては、為替における円高傾向が大きく影響し、売上高、利益ともに前年を下回りました。

(欧米)

北米のスキーウェアを中心とした事業は堅調に推移しましたが、前第3四半期連結会計期間よりイノヴェイトグループを連結の範囲に含めたことに伴い、売上高は増加し、損失は拡大しました。

品目別売上高の状況は次のとおりであります。

(品目別売上高)

区 分	金 額	構 成 比	前年同四半期比
	百万円	%	%
アスレチックウェア及びその関連商品	19,559	70.0	95.5
ゴルフウェア及びその関連商品	6,809	24.4	98.5
アウトドアウェア及びその関連商品	1,566	5.6	98.6
合 計	27,935	100.0	96.4

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(アスレチックウェア及びその関連商品)

アスレチックウェアにおいては、「デサント」ブランドおよび「スキンズ」ブランドにおいて、当社とアドバイザリー契約を締結している大谷翔平選手（北海道日本ハムファイターズ所属）の活用を推し進めたプロモーションを実施。「デサント」では春夏物より新たに同選手の意見を取り入れたウェア「大谷コレクション」の販売を開始することで、ブランドの認知度向上と野球事業の拡大に貢献しました。「ルコックスポルティフ」においては、サイクリング、テニスといったスポーツカテゴリーに注力していく中で、更なるブランドの認知度拡大のため、ITF（国際テニス連盟）ジュニア世界ランキング2位（2016年5月1日現在）のプロテニスプレーヤー、綿貫陽介選手（HONDA ESTILO所属）とテニスウェア等のスポーツウェアに関するスポンサー契約を締結しました。また、「アリーナ」では、清水咲子選手（ミキハウス所属）、藤森太将選手（ミキハウス所属）らとアドバイザリー契約を締結。4月に行われた第92回 日本選手権水泳競技大会においては、同じくアドバイザリー契約を結ぶ入江陵介選手（イトマン東進所属）、瀬戸大也選手（JSS毛呂山／早稲田大学所属）らと共に日本代表に選ばれる活躍をし、ブランド価値向上に貢献しました。更に、「イノヴェイト」ブランドでは、1月にドイツ（ミュンヘン）で開催されたスポーツ用品の国際総合見本市「ISPOミュンヘン2016」において、軽量性・保温性・防水性等を兼ね備えたシェルジャケット「AT/C サーモシェル HZ」がISPOアワード金賞を受賞しブランド価値向上に繋がりました。

(ゴルフウェア及びその関連商品)

ゴルフウェアにおいては、「マンシングウェア」で、2016年1月1日より、日本を除くアジアの各国におけるブランドキャラクターとして、海外での人気も高い木村拓哉さんを起用したプロモーション展開をすることで、アジアでの売上拡大を進めています。「ルコックスポルティフ」においては、ウェア着用契約をしているイボミプロをメインキャラクターとして引き続きブランドの認知度向上を進めています。昨年の春夏より日本および韓国で展開を始めた「デサントゴルフ」については、概ね順調に拡大を続けています。また、ダンロップスポーツ株式会社との業務提携に基づき、日本を代表するプロゴルファーである松山英樹プロへもサプライしている「スリクソン」ブランドのゴルフウェアの展開を春夏よりスタート。同プロの活躍もあり、順調に推移しています。

(アウトドアウェア及びその関連商品)

アウトドアウェアにおいては、国内市場で「マーモット」が順調に推移しました。

その他のトピックスとして、当社の主に直営店、百貨店の店頭において販売業務に従事している月給制契約社員約550名を6月1日付けで販売職正社員として登用しました。これは競争力の源泉の一つである「売場を創る力」の向上のため、販売職スタッフの働く環境の改善を通じて、お客様により良いサービスを提供することを目的としています。

(2) 財政状態に関する説明

(資産、負債、純資産の状況に関する分析)

当第1四半期連結会計期間末の資産合計は101,261百万円となり、前連結会計年度末に比べ6,362百万円減少致しました。

流動資産は前連結会計年度末に比べ5,004百万円減少し、69,936百万円となりました。これは主に現金及び預金の減少4,781百万円、受取手形及び売掛金の減少3,953百万円、商品及び製品の増加3,444百万円などによるものです。

固定資産は前連結会計年度末に比べ1,357百万円減少し、31,324百万円となりました。

負債合計は前連結会計年度末に比べ3,692百万円減少し、34,183百万円となりました。これは主に支払手形及び買掛金の減少857百万円、未払法人税等の減少607百万円などによるものです。

純資産は前連結会計年度末に比べ2,669百万円減少し、67,078百万円となりました。これは主に為替換算調整勘定の減少2,324百万円などによるものです。

以上の結果、自己資本比率は前連結会計年度末に比べ1.4%増の66.2%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループは、2020年度に目指す姿「VISION 2020 ～First in the market～」の達成に向け、中期3ヶ年経営計画「Compass 2018」を着実に実行し、グループ全体での事業拡大を積極的に進めていきます。

通期連結業績予想につきましては、平成28年5月10日の決算短信で公表しました業績予想から変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用の計算

一部の連結子会社について、税金費用は、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、当該連結子会社の法人税等は、法人税、住民税及び事業税に含めて表示しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計方針の変更

(平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を当第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

なお、この変更による当第1四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	26,006	21,224
受取手形及び売掛金	20,787	16,834
商品及び製品	22,616	26,061
仕掛品	92	149
原材料及び貯蔵品	788	805
その他	4,740	4,947
貸倒引当金	△89	△85
流動資産合計	74,941	69,936
固定資産		
有形固定資産	15,730	15,496
無形固定資産		
のれん	3,202	2,824
その他	5,050	4,771
無形固定資産合計	8,253	7,596
投資その他の資産		
その他	8,788	8,321
貸倒引当金	△89	△89
投資その他の資産合計	8,699	8,232
固定資産合計	32,682	31,324
資産合計	107,624	101,261
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	17,002	16,145
1年内返済予定の長期借入金	367	357
未払法人税等	2,005	1,398
賞与引当金	863	420
返品調整引当金	1,160	1,009
その他	6,704	5,116
流動負債合計	28,103	24,447
固定負債		
長期借入金	5,394	5,415
退職給付に係る負債	1,279	1,316
その他	3,098	3,003
固定負債合計	9,772	9,735
負債合計	37,875	34,183

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,846	3,846
資本剰余金	25,184	25,184
利益剰余金	36,978	36,743
自己株式	△672	△672
株主資本合計	65,336	65,101
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	744	522
繰延ヘッジ損益	13	84
為替換算調整勘定	4,001	1,677
退職給付に係る調整累計額	△346	△306
その他の包括利益累計額合計	4,411	1,977
純資産合計	69,748	67,078
負債純資産合計	107,624	101,261

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
売上高	28,989	27,935
売上原価	12,337	11,499
売上総利益	16,652	16,435
返品調整引当金戻入額	111	151
差引売上総利益	16,763	16,586
販売費及び一般管理費	15,523	15,273
営業利益	1,240	1,313
営業外収益		
受取利息	91	49
受取配当金	22	25
持分法による投資利益	46	46
その他	92	36
営業外収益合計	251	156
営業外費用		
支払利息	5	12
固定資産除却損	8	28
為替差損	—	21
その他	1	0
営業外費用合計	15	63
経常利益	1,477	1,406
税金等調整前四半期純利益	1,477	1,406
法人税、住民税及び事業税	958	499
法人税等調整額	△646	△138
法人税等合計	312	361
四半期純利益	1,164	1,045
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,164	1,045

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
四半期純利益	1,164	1,045
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	155	△222
繰延ヘッジ損益	△11	71
為替換算調整勘定	△275	△2,278
退職給付に係る調整額	9	40
持分法適用会社に対する持分相当額	35	△45
その他の包括利益合計	△86	△2,434
四半期包括利益	1,077	△1,389
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,077	△1,389

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年6月30日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	日本	アジア	欧米	計		
売上高						
外部顧客への売上高	10,200	18,786	2	28,989	—	28,989
セグメント間の内部売上高 又は振替高	138	20	—	159	△159	—
計	10,339	18,807	2	29,149	△159	28,989
セグメント利益又は損失	△997	2,451	△105	1,349	△108	1,240

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額△108百万円には、セグメント間取引消去7百万円、棚卸資産の調整額△116百万円を含んでおります。

(注) 2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年6月30日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	日本	アジア	欧米	計		
売上高						
外部顧客への売上高	10,625	16,746	563	27,935	—	27,935
セグメント間の内部売上高 又は振替高	174	27	49	251	△251	—
計	10,800	16,773	613	28,187	△251	27,935
セグメント利益又は損失	△906	2,359	△270	1,183	130	1,313

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額130百万円には、セグメント間取引消去135百万円、棚卸資産の調整額△5百万円を含んでおります。

(注) 2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

III 報告セグメントの変更等に関する事項

(セグメント名称の変更)

Pedes Investments Limited社及びその子会社(イノヴェイトグループ)を連結の範囲に含めたことに伴い、前第3四半期連結会計期間より、事業セグメントの区分方法を見直し、報告セグメントを従来の「日本」「アジア」及び「北米」から、「日本」「アジア」及び「欧米」に変更しております。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報については変更後の区分により作成したものを記載しております。

4. 補足情報

海外売上高

前第1四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年6月30日)

(単位:百万円、%)

	アジア	北米	欧州その他の地域	計
I 海外売上高	19,106	2	41	19,150
II 連結売上高				28,989
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合	65.9	0.0	0.1	66.1

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

当第1四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年6月30日)

(単位:百万円、%)

	アジア	北米	欧州その他の地域	計
I 海外売上高	17,147	178	412	17,738
II 連結売上高				27,935
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合	61.4	0.6	1.5	63.5

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。